

|                  |  |      |       |
|------------------|--|------|-------|
| 講座名（専門科目名）       | 病院薬剤学  | 教授氏名 | 奥田 真弘 |
| 学生への指導方針         | 薬物血中濃度測定法、薬物輸送実験の手技、薬物毒性の評価法、分子生物学の基本的な手技、臨床データの統計解析法、関連文献の評価法と論文をまとめる能力を養います。 |      |       |
| 学生に対する要望         | 研究を通じて論理的な思考力と問題解決能力を身に付けてください。  |      |       |
| 問合せ先             | (Tel) 06-6879-6000<br>(Email) okudam@hosp.med.osaka-u.ac.jp                    | 担当者  | 奥田 真弘 |
| その他出願にあたっての注意事項等 | 特にありません。   |      |       |

(以下教室紹介)

当研究室は、医学部附属病院の薬剤部門に属しており、学生・大学院生だけでなく実務に携わる薬剤師が薬物療法の科学的基盤となる薬物体内動態学、製剤学、医療薬学に関連する幅広い分野の研究を課題として取り組むことで、医薬品適正使用を目指した薬物療法のエビデンス構築を図っています。

医薬品は、主に製薬企業が創製し、有効性や安全性に関するさまざまな試験結果をもとに薬事承認された後、臨床で使用されますが、心身に少なからず負担をかけることから個々の状態に応じて適切に使用する必要があります。投与量一つをとってみても” One size fits all” というわけにはいかず、薬物の体内動態や投与後の反応を事前情報に基づいて予測したり、投与後にモニタリングすることで、薬物投与の適切性を評価したり、調整することが必須となります。しかしながら、薬事承認までに得られる情報は限定的であることから、市販後も実医療で使用される中で、患者の状態を観察することで、効果や副作用などの症状を把握し、収集したデータに基づいて解析を加え、結果を社会に向けて発信することが重要となります。

病院薬剤学分野の研究室は、薬物療法の個別化を通じて医薬品の有効性・安全性確保と適正使用推進を図るため、薬物動態学や製剤学、薬理学だけでなく、遺伝学、細胞生物学、統計学（症例対照・コホート研究）などを基盤とした以下の研究に取り組んでいます。

- 1) 薬物の体内動態制御因子並びに薬効・副作用バイオマーカーの検索とその有用性
- 2) 薬物の血中濃度モニタリングと投与設計
- 3) バイオマーカーに基づいた薬物療法個別化
- 4) 高品質な新規院内製剤の開発
- 5) 薬剤業務の質的・量的評価と医療における薬剤師の役割

あなたも、病院薬剤学研究を通じて、最適な薬物療法の構築にチャレンジしてみませんか？